

夏休み学習カレンダーの活用方法

■ 夏休み学習カレンダーについて

【目的】「スケジュール通り行動できた・計画通りに学習をすすめられた」など、「できた」を見える化し、達成感を得ながら、子ども達のやる気を高めること。

【計画倒れをふせぐ注意点】

- ①計画設定に無理があると夏休み学習計画はうまくいきません。スケジュール表に空欄がたくさんあると、つい埋めたくなくなってしまいますが、つめこみすぎた計画表は、子ども達に「やらされている感」を与えてしまいます。「もう少しできそうかな」と思えるぐらいで止めておきましょう。
- ②目標をしぼって、夏の目標に記入しましょう。目標は達成することに意味があります。目標の数を絞って、少し頑張ればできるかなというレベルで設定しましょう。このとき、子ども達とじっくり相談して、目標をたてると効果的です。

【例】

夏休みの目標を書こう！

朝 午前中	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 毎朝6時30分に起きる 😊 朝食前10分計算問題/午前中に2時間勉強する
昼 正午～夕方6時	<ul style="list-style-type: none"> ♥ 水曜日と土曜日は音読20ページと意味調べ
夜 夕方6時～	<ul style="list-style-type: none"> 🌙 漢字練習の時間を30分とる ▲ 算数の計算日記上巻を毎日3ページずつ復習演習する ★ 10時30分には寝る



火	水	木
7月 29日	7月 30日	7月 31日
◆ 😊	◆ 😊	😊
	♥	
🌙		

目標達成ができたならシールを貼ったり絵を書いたりして、目標達成の「見える化」！

③カレンダー表を家族の目にとまりやすい場所（冷蔵庫など）に張り、カレンダーを見ながら声掛けをしてください。「〇〇の目標が続いているね。頑張っているね。」「△△の目標が昨日できなかったみたいだね。じゃあ、昨日の分も今日取り返そうね。」など。

④週に一回、計画を振り返りましょう。カレンダーも1週間ごとに分けています。宿題が大量にたまってしまいやる気ダウンというケースも多々あります。1週間に一度、ためてしまった宿題を片付ける宿題調整日・計画見直し日を設定しておく軌道修正がしやすくなります。

【例】

日	月	火
7月 27日	7月 28日	7月 29日
🌙 ▲ ★	🌙 ▲ ★	🌙 ▲ ★

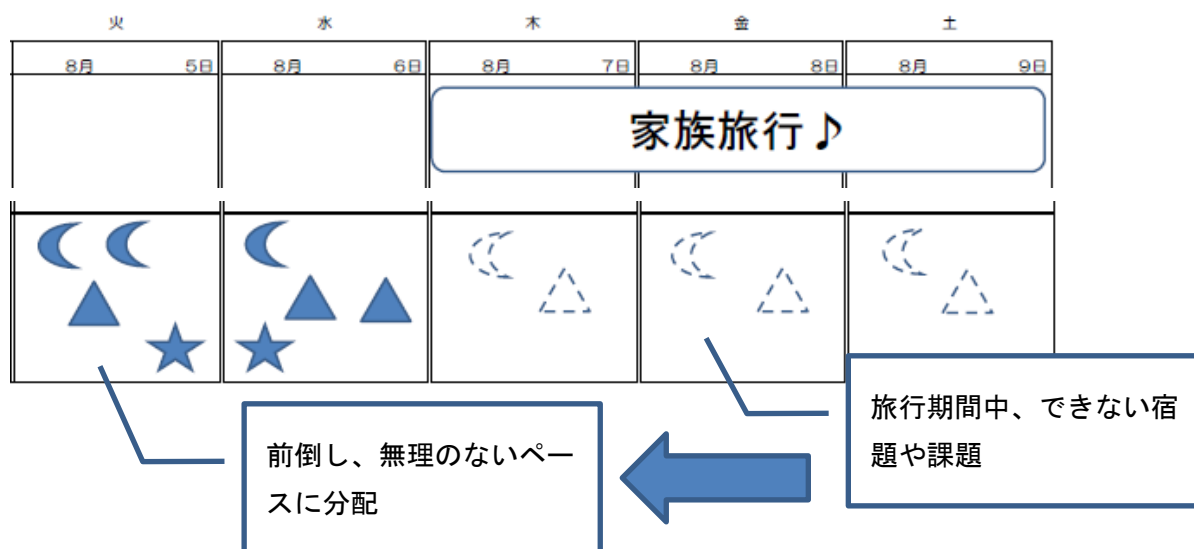
目標達成できなかった＝宿題や課題がたまる

週に一度、宿題や課題の調整日を設けてたまったものを消化する

⑤生活リズムの軸となる4つの時間「①起床時間・②夕食時間・③入浴時間・④就寝時間」は原則として普段の生活の時間をキープすることを心掛けて欲しいのですが、就寝時間だけは1時間早めに設定してください。気温が高くなるにつれて、子ども達の体力の消耗も激しくなります。夏バテ防止や学習中の集中力アップなどの効果がありますし、午前中の学習への意欲も増します。生活リズムを作るうえで、最も重要な時間となりますので、睡眠時間はきちんと確保しましょう。

⑥旅行や外出で毎日のルーチン作業が中断される場合は、その分の前倒しが基本となります。(事後は子ども達のモチベーションが下がる要因となります。)

【例】(3日間の旅行の場合)



※ 前倒し学習のメリット

①やる気がアップ・・・旅行前という楽しみが待っているので、旅行前に宿題や課題の量がふだんよりやや増えたとしても、子ども達は頑張ってやり切れます。これが、旅行後だと、なかなかやる気を出してくれません。

②調整がしやすい・・・旅行中の学習分を日割りにして、無理のないペース配分で前日までの日程に落とし込めば、子ども達が頑張りきれぬペースを保ったまま学習をすすめられます。

③計画性が身に付く・・・将来の予定に合わせて、現在の計画を変更したり調整したりする能力は、受験に向けて欠かせない能力となります。ぜひ、この夏でスケジュール調整能力を養っておきましょう。